

映像配信する場合のポイント

1. 撮影機材の特徴

(1)スマートフォンカメラ

新たにカメラを購入する必要がなくお手軽ですが、デジタルカメラに比べると画質が劣ります。

(2)Web カメラ

パソコンと USB 接続するだけで撮影でき、価格も安いので入門者向きと言えます。パソコンに接続して使用するため、屋内での使用に適しています。

(3)コンパクトデジタルカメラ

本体は軽く持ち運びしやすいので、屋外や移動しながらの撮影に適しています。

(4)一眼レフデジタルカメラ

コンパクトデジカメに比べると大きく重いですが、高画質な動画撮影ができます。また、レンズの交換ができるので撮影の条件や目的による撮影の幅が広がります。

(5)デジタルビデオカメラ

手持ちでの撮影向きに設計されていることや、デジカメに比べてバッテリーが長持ちするなど、長時間の撮影に向いています。また、手ブレ補正機能も付いているので手持ちの撮影にも適しています。

2. 撮影時の注意点

綺麗な映像撮影のためには手ブレは厳禁です。デジカメやスマホで撮影するときは三脚など固定するための機材を用意しましょう。三脚には様々な種類があるので撮影場所や目的によって選択しましょう。

また、動きながら撮影する際には、スタビライザーを使用するとブレの無い滑らかな映像が撮影できるでしょう。

3. 照明(照明機材の種類と特徴)

屋内で配信用の映像を撮影するとき、常設されている蛍光灯のみでは撮影に十分な光量を得ることができないので、照明機器を追加して撮影する必要があります。

(1)白熱球

値段が安く手軽に入手できますが、寿命が短く発熱があり、消費電力が大きいのが特徴です。また、光の色がオレンジ色に近く、撮影に使用するときは補正が必要な場合があります。

(2)蛍光灯

白熱球同様、値段が安いですが、寿命は比較的長く発熱もないため消費電力も比較的少ないのが特徴です。フリッカー現象という映像がチカチカする現象が起きることがありますが、カメラのシャッタースピードを調整することで防ぐことができます。

(3)LED

値段は比較的高価ですが、寿命は長く消費電力も少ないため、近年の照明機材の主流となっています。

4. 動画の編集

マイクが内蔵されている機器(スマホなど)を使用する場合を除き、映像と音声を別々に収録して編集する必要がありますが、気を付けたいのが、「音ズレ」です。音ズレの原因はいくつかありますが、もっともよくあるのが、映像データと音声データのコマ数の違いです。映像データのコマ数は、フレームレート、音声データではサンプリングレートと呼ばれています。複数の動画を継ぎ合わせる際、フレームレートやサンプリングレートが各動画で異なっていた場合音ズレが起こります。これを防ぐためには、各素材の収録をする際にフレームレートとサンプリングレートを統一しておくことが重要です。収録済のデータの場合はトランスコードが必要です。

5. 配信システム

Web上で映像配信を行うためのシステムを映像配信プラットフォームと言います。映像配信プラットフォームには無料と有料のものがあります。動画投稿サービスなど、無料のプラットフォームは多くの方が視聴する可能性があり、広く周知を図るためには適していますが、コンテンツの権利を重視する場合には向いていません。一方、有料プラットフォームでは高いセキュリティーレベルで不正ダウンロード対策をとるなど、コンテンツの権利保護にも力を入れています。

また、配信によって収入を得たい場合の仕組みにも違いがあり、無料プラットフォームでは収入の仕組みはプラットフォーム側が設定するのに対し、有料プラットフォームでは配信する側で設定することができます。

6. 広告

広告を利用して SNS ユーザーをコンテンツへの誘導をすることができます。ユーザーの性別や年代、居住地などを絞って広告を流すことができるのでアクセス解析と組み合わせれば、さらに効率的に広告を流すことができます。

7. 著作権

他人の著作物(楽曲等)を使用する場合は、著作者の承諾を得なければなりません。これは Web での映像配信についても当てはまります。

ただ、JASRAC(一般社団法人日本音楽著作権協会)にて著作権管理を行っている楽曲で、YouTube など JASRAC と許諾契約を締結している動画投稿サービスにおいて配信を行う場合は、動画の投稿者は個別に許諾を得ずに、JASRAC 管理楽曲を含む動画を配信することができます。詳しくは JASRAC のホームページ等をご覧ください。